

疎化現象を呈している。

埼玉県春日部市の農業における都市化の影響

白石 祐子

春日部市は東京から約35kmの距離、しかも交通的にも便利な所にありながらも、東京南郊、西郊に比べ都市化の遅れた地域と言われる北郊の、その中でも更に遅い県東部の低地帯に位置している。江戸時代は日光街道の宿場町として賑わい、以後も埼玉の穀倉地帯の一部をなし埼玉地域の中心ともなってきたこの地が、他地域の例にもれず近年急速な人口増加を見、変質してきている。

1.この一般に都市化と言われる現象が春日部においてはどのような性格をもって進行してきたのか。

2.先住民であった多くの農家はそれに伴いどう変化していったのか。そしてその際に水田地域であるということがどう影響していったか。

3.現在では少数派となっている専業農家、積極派農家はどのような形で農業を存続・発展させているのか。

を究明することを本論の目的とした。また、都市化の開始期が遅かったということが逆にプラスに働いて、都市化の悪影響を幾分でも遅延対応しえたのではないかという期待を持って本研究に臨んだことも付記しておく。

第一章では低湿地であるという自然条件、歴史などの概観を簡単に述べた。

第二章では都市化ということをもう一度ここで考え直してみ、結論的にはわかりきっていることかもしれないが、春日部のいわゆる都市化の性格を主に統計資料を中心に考察してみた。

第三章では全体的な春日部の農業の動向、そして行政の農業に与える影響、専業農家・積極派農家の経営、考えなどを主に聴きとりアンケートなどによって調査し、考察を試みた。

春日部の都市化は、昭和41年、大規模な武里団地の入居開始をひき金に始まったと判断される。そしてこれに始まる人口の急増により、転入者が多くを占めるようになると市の人口の持つ性格は大いに変化していった。この人口の急増は春日部そのものが持つ都市的吸引力によるものではなく、大都市東京の住宅地としての機能が押し出される形でもたらされ、これは農地転用の76.2%が宅地であることでも裏づけられる。そして周辺農村の中心地であるという性格は確かに持ち続けながらも、東京とのつながりを着実に強め、大都市東京の一部でもあるという二重構造をもつ典型的なBed Town化という過程をたどっている。

そして同距離圏にある他地域に比べればまだ比較的農村的色彩も残っているが、大勢はやはり兼業・脱農化への方向を着実に進んでいる。しかもその兼業化傾向は人口増加が急激になる以前、すでに昭和30年代には始まっていた。そして最も省力化の進んでいる稲作が主であったためにその傾向は更に促進された。しかし中には都市化のプラス面に目を向けた梨栽培農家、そして若く気骨のある後継者達の農家経営層もある。現在は後者は主として施設園芸を中心としている所が多いが、「兎に角一日中一生懸命働きぬいて何とか食べていければ…」という昔ながらの農業観ではなく、如何に合理的

に農業を経営していくかという積極的に農業を変革していくという姿があった。

つまり都市化により蚕食されていった農家と、その中で大都市に近いために各々が工夫を実現できる有利性を利用していく農家とはっきりと階層分化がおこっており、当然のことながら後者は少数派である。しかしこれが意識の問題だけで分化されていったのではなく、明らかに元からの農地の広さという条件が大きく働いていることは見逃せない事実でもある。

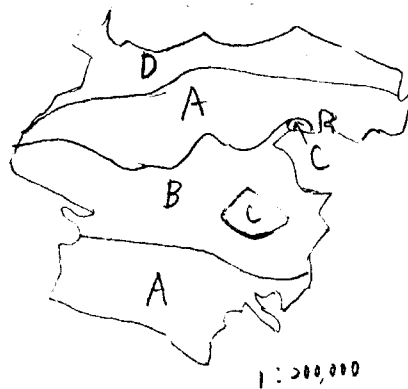
千葉県印旛郡印西町の集落地誌的研究

中 上 京 子

(1)目的：古村，新田，開拓部落と多様な集落から成る千葉県北西部の印西町をフィールドに選び，集落地理学の種々の側面からアプローチしてその地域性を明らかにしたい。

(2)枠組：先ず第Ⅰ・Ⅱ章で自然環境及び人文環境の点から印西町の概観を把握し，次に第Ⅲ章で本町の集落を形態，発達史，立地，機能の分野からとらえ，最後に集落を中心とする地域区分を試みた。第Ⅳ章では具体的に対象や地域を絞って本町の地域性の変遷を眺め，第Ⅴ章でこれらをまとめ印西町ので地域性を考察した。

(3)結果：①印西町の集落を中心とする地域区分は図のようになる。これは地形，水利，機能，発達史の4指標を総合して得られた結果である。形態との対応は表に示す通りである。



	地 形	水 利	機 能	発 達 史	形 態
A	（台地末端 谷底平野，盛土地， 斜面，下位面，中 性面，上位面）	不圧地下水面は低 所で浅く高台で深 い。管て絞り水が よく出た。	田畑型	古村（江戸時 代以前から）	塊村か列村か， これらの複合形
B	（台地中央 侵食谷沿いの中位 面，緩斜面，上位 面，凹地）	不在地下水面は地 表から浅い。宙水。 管て絞り水がよく 出た。	畑型	新田集落 （江戸時代以 降）	散村か列村
C	台地中央 （上位面）	地表から不在地下 水面までの深さは 20m位の範囲で異 なる。	畑型	開拓部落 （昭和期以降）	散 村
D	低 地 （自然堤防）	不在地下水面は地 表から浅い。本水， 管て，利根川・手 賀沼の洪水に悩ま された。	水田型	新田集落 （江戸時代以 降）	列 村